

ひまわり

道退教胆振・室蘭支部

<支部長> 木村政幸

<事務局>

苫小牧市宮の森町

2-14-5

山口 徹 方

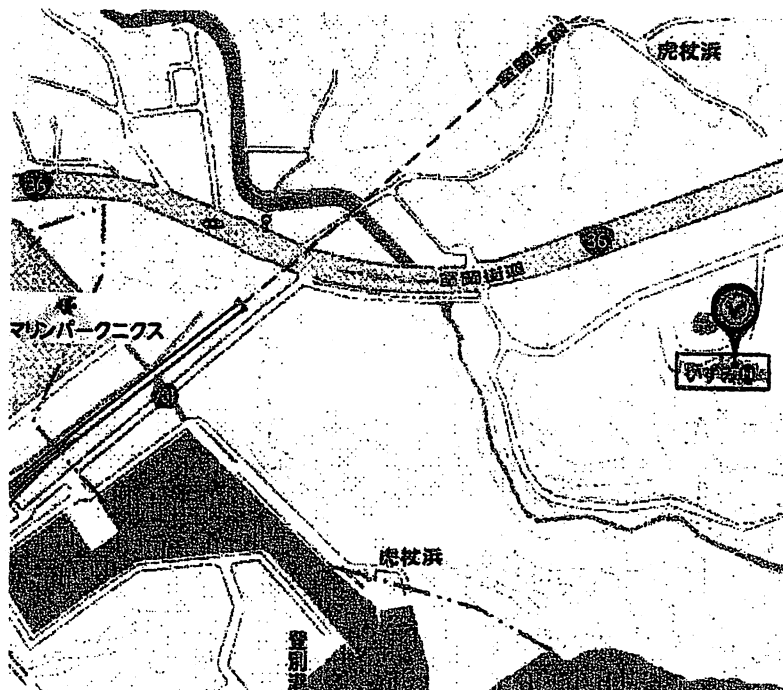
☎0144-74-0320

第20回道退教 胆振・室蘭支部 年次総会

7月の声を聞くというのに、時々肌寒い日が見られる毎日ですが、会員の皆さんは如何お過ごしでしょうか。

さて、年次総会ですが、当初5月上旬に総会を開く予定を立てていましたが、山口が狭心症を発症し、手術が入ったために変更せざるを得なくなり、4月

20日の支部役員会で、参議院選挙後の7月23日(火)～24(水)の日程で開催することになりました。選挙終了直後ということもあり、色々事情もある事とは思いますが、多くの会員の方の参加を期待します。



<日時>

7月23日(火)

14時受付

15時～総会

18時～夕食交流

24日(水) 朝食
後解散

<会場>

白老町虎杖浜「ホテル
いずみ」

白老町虎杖浜312-1

☎0144-87-2621

<会費>

一人 10,000円

宿泊の有無、互助会宿
泊券利用で変更ありま

す。(互助会利用の方は、宿泊券を御持参下さい。)

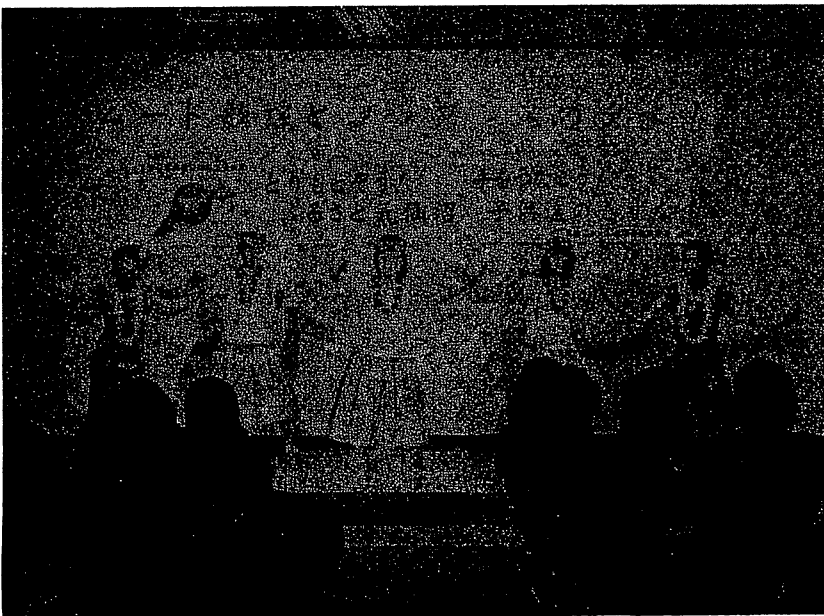
<参加申し込み>

同封の葉書に、氏名・必要事項を忘れずに記入の上、7月16日(火)迄に返送下さい。(特に、氏名記入をお忘れなく。)宜しく御願い致します。

第22回 道退教総会

5月18日(土)道退教総会が、北海道労働センターで開かれ、木村支部長と、伊達・西部地区から黒田さんと毛利さんが、忙しい中参加しました。黒田さんには、当日の議長を引き受けて頂きました。御苦労様でした。

当日の討論の様子などは、同封の「道退教ニュース」を御覧下さい。



会員近況

交流会後に事務局に届いた便りや、知り得た会員の近況について報告します。

日々多くの会員の方が、趣味や様々な地域で活動している中で、年齢が進み仕方がないといわざるを得ない部分ではありますが、思わぬところで、怪我をして入院、病気を発症して治療中、家族の方が亡くなられたなど、残念なニュースも飛び込んできます。普段、なかなかお互いに励まし合うことは出来ませんが、どこかで顔を合わせたときには、声を掛け合い、お互いの元気を分け合いたいですね。

☛ 徳弘孝子さんと竹田登紀子さん

ひととき

かつて、退院をむかえた時、80～90才代の親たちと
居住を共にしていた。彼等が元気で私の退院を
祝ってくれたことに感謝しつつ、これから10年間で
おこなうであろう彼等のさまざまな重大事を予想して
いた。その通りというべきか、この4～5年は私の
身辺を餘香のにおいで包み込んで多々あった。

加えて、ある事が夫までが肺ガンにおおされ
命を終えてしまった。

70才をまわった。次は私も……と疑心暗鬼に
かられ、神仏無信心にしかかわらず厄払いを考えた
程である。

生をうけて、世に在るといふことは、かわらず死をむかえる
(早いのか、おそいかの違いがあるにせよ)

だから、私は家族の最期を無事送り終えたことを
ひとつのほりといながら、いなかを歩んでいこうと思った
自分の生き方についても、人と人の間で笑ったり
怒ったりしながら生かされていることを心の鏡で
見つけ、惶急でなく、ゆったり心おだやかに送ろう
と思いはじめた。

そんな時、

「気仙沼キッズ北海道体験学習客の森支部実行
委員会」から東日本復興支援事業へのコラボ
レーション行事参加の要請をうけた。

フラダンスで 一役を というのだ。

体力作りとにはじめた フラダンスであるが上手、下手は
となく、いやしへの参加はありがた 友人 5名と、

ハワイ平和踊りて コラボした。

その日は、会場の出席者と共に踊り 笑いを 増幅
させることができた。

震災 原発、TPP 等々 暗雲たちこめの日本、

善意の災害基金も 使途不透明、

不審の念にみまわれる 頃であったが、復興支援
の輪に 加えてもらったことにより 充実の 共同体感 ともいわず
国政の スローダウン 復興対策 に対して、苦小牧の
いち地域が 計画的に 支援の輪を 広げていることは
すばらしい。

森の森地域に 住んでいる 元教師の仲間 に 拍手
を送りつけた。

徳玉孝子

苦小牧市宮の森町内会の有志の方達が、気仙沼の子どもたちが体を動かして遊べる環境にないことを知り、「夏休みに少しでも伸び伸び出来る環境を」ということで5年間の予定で子どもたちを招く取り組みを始めました。その資金集めのために町内での行事を計画し、資金捻出の取り組みをしています。

昨年の町内会の皆さんにの協力への感謝と、今年度の取り組みへの協力をお願いをこめて企画した催しに、「フラハラウ・カマカ・オカラニ」チームに声がかかりました。

会場は、大きな拍手に包まれました。

へ俳句へ

・せせうぎに 鶯ノ口の美しき

・春寒し オスプレイの唸りごえ

※ 教職39年で退職

・教職のわが手を見詰む成人の日

※ 今年の西小卒業式

・花満開ステージ飾りし小五年

・満開の桜の中を卒業す

※ ちひろの暦

・メーデーや 暦めくれは子の瞳

※ 南スーゾンの放映

・内戦に骨と皮の子数千人

5月8日、登別の佐藤繁喜さんから、奥さんが亡くなられてから半年が過ぎ、今まで奥さんの句が中心でしたが、少しずつ自然や社会事象に目が向いて俳句を作っていますとの便り。最近の句を送ってくれました。山口の体調（腰痛）への気遣いの一言も添えられていました。有り難うございました。

山口予想外の発症 5月9日王子病院で「労作性狭心症」のステント治療を受け、体調は落ち着いてきました。

狭心症の疑いありで、10年近く投薬治療を受けていましたが、コレステロール値が下がらないものの、さしたる症状もなかったので、油断していました。今思うと、昨年夏頃から階段を上がる時に体が重くなり、一寸走ると動悸が強まり息切れ、11月頃から腕立て伏せで肩こり、腰痛がひどくなり同じ姿勢が続けられない、左腕のしびれが強くなる、等の症状が続いていましたが、脊椎側弯症が進んでいることと加齢と運動不足と自己判断、病院の先生にもそう話していました。所が、今年の2月、道退教幹事会のため札幌へ行き、駅前駐車場から歩き出した途端に心臓と肺が急冷されて針で刺されたような痛み。一寸立ち止まっていると少し収まるという症状が出始めました。その後、除雪中にも症状が出るようになり、掛かり付け

医の先生から精密検査ということで王子病院へ。CT 検査で、3本の冠動脈の1本の血流が悪い様だということで、カテーテル検査をしたところ、左の1本が石灰化してほぼ完全に詰まっていたが、バイパスの血管が出来ていたため、心筋梗塞だけは免れていたとのことでした。手術は両足付け根からカテーテルを入れての手術。石灰化が進んでいたために大変だったようですが、無事ステントを2本入れて通過ということでした。翌日、出血無しという事で無事退院。今は少しずつ運動などを始めました。食生活と規則正しい習慣が重要と言われていますが、これが長年の習慣でなかなか改善できません。頑張らなくてはと思っています。

千葉の川上さんから 「房総サライ」 届きました。別刷りで入れました。

石狩・札幌支部通信の写真に胆振の懐かしい方達の顔が。分かるでしょうか？



< 2列目左 > 片桐十三さん < 2列目右 > 打方成美さん
< 3列目左から3人目 > 堤久子さん

訃 報

6月27日、伊達の 畑作 美好 さんが逝去されました。葬儀は家族葬で行われたそうです。ご冥福をお祈り申し上げます。
